市民のひろば

掲示板

◆第10回刃物供養菜祭

©やなせたかし 土佐打刃物 タンちゃん

【日時】

12月3日(土)～11日(日)

平　日　8時30分～17時

土・日　10時～16時

【場所】土佐刃物流通センター（土佐山田町上改田）

【催し】

・不要になった刃物の供養、リサイクルBOX設置

・再生品のオークション

・供養作業実演
（土・日の13時～）

・刃物研ぎ　200円～
（ZAKURI商品は無料）

※土・日依頼分は、当日返却。平日依頼のあった物、およびハサミ類はお預かりし、後日返却します。

【問い合わせ先】

(協)土佐刃物流通センター
☎52・0467
（土佐打刃物技伝職集団
ZAKURI）

まちの声

◆土佐打刃物について
（第17回かみかみクイズから）

土佐打刃物は、使ってみて初めて切れ味が分かる。

◇　◇　◇

すばらしい技術をもっているのに、後継者があまりいないようですね。県内外にももっとアピールすべきだと思います。イベント等も企画して。

◇　◇　◇

私も一本持って長く使っています。昔、鍛冶屋（かじや）の見学に行ったことを思い出しました。

◇　◇　◇

関東地方に住んでいる知人が、土佐打刃物の包丁をとても気に入って、柄が水で腐っても取り替えて、ずっと使っています。もっと宣伝を！

◇　◇　◇

出刃包丁、刺身包丁を使用しています。切れ味最高。

◇　◇　◇

昔は稲刈りも鎌で、手刈りでした。楠目地区は鍛冶屋の多い所で、朝早くから、トン！テン！カン！テン♪と聞こえていました。物作りの良さ、価値（観）を広報等でもとりあげて、若者たちにも知ってもらい、伝統ある〝土佐打刃物〟を受け継いでいく人材を育てることが大切だと思います。

◇　◇　◇

普段家で何気なく使っていた包丁が土佐打刃物であったことを初めて知りました。切れ味が良くて使いやすいです。包丁以外の土佐打刃物は、まだ見たことがありませんが、とても興味があるので、刃物まつりにも、ぜひ、行ってみたいと思います。

作:鳴鉢 ウノタ
（山田高校マンガ部）

ちなみに市役所近隣の桜並木でも狂い咲きが見られました。

おたんじょうび おめでとう

今月満１～３歳の誕生日を迎えるお子さんを紹介します。

※㊤は土佐山田町、㊦は香北町、㊥は物部町です。

掲載を希望される方はお問い合わせください。締切日は誕生月の前月１日まで。
問 総務課☎53－3112

編集後記

▼刃物まつり初日は、夕方雨が降りました。かかしの中には布製のものもあり、かかしに合羽を着せる光景もみられました。ここで一句、秋雨やかかしも合羽を身にまとい（細木）
▼やなせたかし記念館の収蔵庫落成式の取材に行ってきました。次回、12月号をどうぞお楽しみに。ここで一句、黄金田に映える壁画はバイキンマン（公文）

香美史探訪記
第29回　朝比奈右京と永野（香北町永野）

山内氏が土佐２４万石の藩主になった時、朝比奈氏は1，４００石を賜（たま）わった。この石数から有力家臣の一人であると考えられる。

この朝比奈氏の所領に香北町永野の８１石も含まれていたが、永野地区は水利に不便で、優良な米の生産地ではなかったので、朝比奈右京親子は慶安２年（１６４９）１０月、東側の久保川からの導水を計画して水路工事を開始した。この江戸時代初期は、藩政も積極的に米の増産で経済力を高める政策があったようである。

水路の開削は、岩盤や急傾斜地、軟弱地盤や崩壊地もあり、これに人力に鍬（くわ）とモッコで挑むのは大変だった。ズイキ（千里芋の茎）を焚（た）いて岩を割り、幾度も崩落したとも伝えられているが、的谷（まとだに）より東は６カ月で完成させた。３代目玄蕃（げんば）が志を継いで工事を継続し、一年を経ずに的谷より西を完成させた。藩主は玄蕃の功績を評価して、新たに2，５００石を与え、中老から家老職に列せられた。

村人は、代々この朝比奈氏の功績を口伝した。大正９年１２月、地区青年によって野麓（やろく）神社境内に**永野大井開鑿（かいさく）記念碑**が建立されて偉業を伝えている。本田８町１反、新田３９町７反の内、約２１町一反を**役知**（藩士の私有地）として与えられ、また、玄蕃は長岡八幡宮（なんかはちまんぐう）に射場を設けた。**南路志**（なんろし）には「朝比奈玄蕃が鉄砲の役知として長岡を給地されたとき、長岡に１０人が鉄砲を備えた。やがて、寛文１２年（１６７２）正月１５日に、撃ちはじめを行って以来、ここが射場になり、八幡が祀（まつ）られるようになった」と書かれている。

長岡八幡宮

朝比奈玄蕃は、宝永７年（１７１０）に退隠し、正徳５年（１７１５）７５歳で没した。継子玄蕃元武は、正徳２年に自害していたので、朝比奈家は断絶した。長岡八幡宮は、長岡の住民によって祀られ、今日に朝比奈氏の徳を伝えている。

（香美史談会）

ただいま留学中 54
張 士勛（ジャン シーシュン）（中国・河南省鄭州市）

私は、高知工科大学大学院工学研究科博士後期課程２年生です。２０１０年の10月に中国の鄭州市から来ました。今は情報システム研究室で、高性能計算処理環境について研究しています。今日は私の大好きな鄭州市を紹介します。

鄭州は河南省の省都です。河南は黄河の南という意味です。中国の中央に位置していることから、商の時代（紀元前16～11世紀）の都として栄え、以後３千５百年の歴史を誇っています。当時から青銅精錬技術や陶器生産技術が、とても発達していたと言われています。商時代の甲骨文字、青銅器などを含む文化財が保存されていて、河南博物館で展示されています。ここでしか見られない文化財が多く展示されていますので、ぜひ、訪問してください。少林武術のお寺として、また達磨が禅を始めたことで有名なお寺、少林寺は鄭州にあります。５世紀の建立とされています。

鄭州市は今も交通の要所として発展し続け、人口も増えています。鄭州市で600万人、河南省で１億人と言われています。鄭州市の中央経済区の開発計画には黒川紀章の提案を採用しました。環境・共生・代謝・環状都市という発想の基、鄭州市は発展を続けています。

私は香美市に住んで１年になります。香美市はきれいで、静かで、暮らしやすい町です。皆さん、とても温かくて優しいです。香美市の皆さん、これからもよろしくお願いします。